

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立南丹高等学校 】

1 実践 テーマ	【 V 】
2 実施 対象者	京都府立南丹高等学校 全学年（1～3年）生徒526名及び教職員
3 展開 の形式	学校における活動 行事名（オリンピック・パラリンピック教育推進事業）
4 目標 (ねらい)	<p>～世界のトップレベルから学ぶ！～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピックそのものについての学びやオリンピック・パラリンピックを通じた学びにより、「スポーツの力」を実感させるとともに、一人一人に豊かな「スポーツごころ」を育み、2020年以降のスポーツ文化の広がりにつなげる。 ・世界を代表するアスリートから自己実現に必要な資質を知り、競技力向上と自己肯定感を高めるために、日頃からどのような考え方で生活することが大切かを学ぶ。また世界のトップレベルを知り、スポーツに関する関心を高める。
5 取組 内容	<p>世界卓球選手権ダブルスで銀メダルを獲得した京都府出身の大島祐哉選手を学校に招き、生徒が大島選手の練習、模範試合等を見て、講演を聞く。</p> <p>(1) 事前学習 各クラスで、オリパラ事業の趣旨説明、大島祐哉選手についての説明を行ない、事前アンケート調査を実施した。質問内容はスポーツ、卓球、オリンピックへの関心、大島選手への質問で、このうち質問については、事前に大島選手に送付した。</p> <p>(2) 実演と講演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校体育館の中央に卓球台を設置し、生徒用座席を周囲に配置 ・日本の卓球の歴史と現状、大島選手の実績について説明 ・校長より本事業の意義と大島選手の紹介 ・卓球練習見学 スパーリング・パートナーは田中豪（関西学院大学 平成26年度関西学生新人卓球選手権大会優勝） <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>本校体育館に卓球台を設置</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>スパーリングパートナーと模擬試合</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・本校卓球部生徒との練習試合 本校卓球部の3年生生徒と大島祐哉選手との模擬試合を行い、試合後、それぞれの感想等を話した。



本校卓球部生徒と模擬試合



感想と将来への抱負を語る本校卓球部員

- 本校卓球部生徒との練習試合
本校卓球部の3年生生徒と大島祐哉選手との模擬試合を行い、試合後、それぞれの感想等を話した。
- 卓球の用語解説と質問についての回答
回転のかけ方や打ち方について、事前の質問に答えながら大島選手に説明や実演をしていただいた。



ドライブやカットの解説と実演

- 事前の質問に答える形でのお話
生徒からの事前の質問に答えながら、卓球を始めたきっかけや、練習内容、普段考えていること、アスリートの生活、試合前の思い等を大島選手から生徒に向けて話をしていただいた。



事前の質問に答えながら、生徒に向けた話す大島選手

- 生徒代表からのお礼の言葉と花束の贈呈
生徒代表として卓球部員と体育委員長からお礼と花束を贈呈



お礼の言葉を述べる卓球部生徒と花束の贈呈

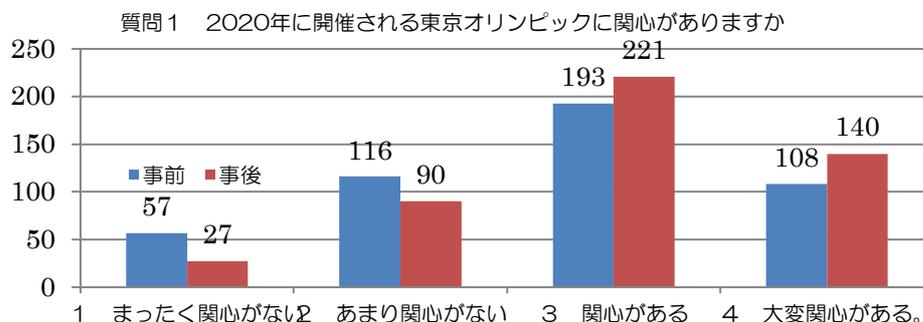
(3) 事後学習

- ・講演終了後（当日講演後もしくは翌日のガイダンス）に講演の感想、スポーツ、卓球、オリンピックへの関心を聞く事後アンケートを実施した。

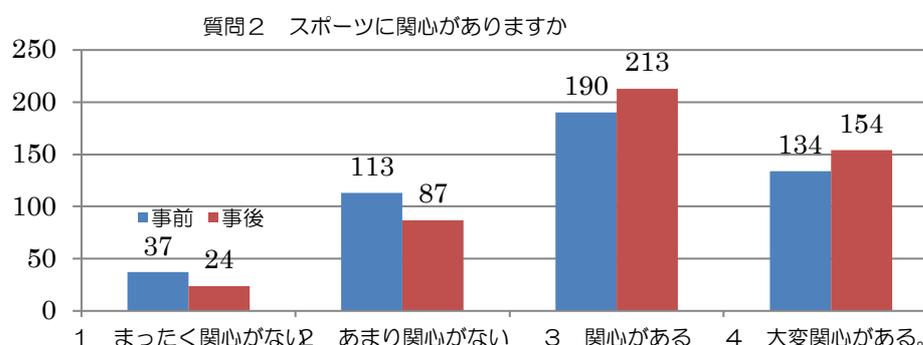
6 主な成果

事前アンケートと事後アンケートで、同じ質問に対する変化を見たところ、オリンピック、スポーツ全般、卓球のいずれについても関心が高まった。

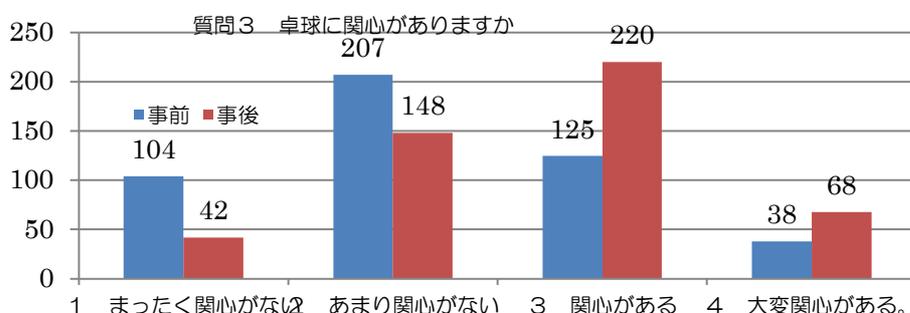
(1) オリンピックへの関心 事前平均 2.7→事後 3.0



(2) スポーツ全般への関心 事前平均 2.9→事後 3.0



(3) 卓球への関心 事前平均 2.2→事後 2.7



<生徒の感想>

事後アンケートでは非常に多くの生徒から、感動した、頑張ろうと思ったという感想が寄せられた。以下にいくつか例をあげる。

「本当に夢を叶えたいと思っていれば行動が変わる」という言葉が印象に残りました。私はやっぱり部活をしているので、「バレーがうまくなりたい」と思っているので、そのために何をまずすべきか、大島選手のように自己分析をしたいと思いました。(1年女子)
オリンピックまで後もう少しで、世界で活躍している大島選手が目の前で卓球をしてくださって、ルールの詳しいことはわからなくても、見ててすごいとか、迫力があると感じた。あまり興味のなかった卓球だけれど、今回の講演で、テレビで卓球を見ようと思うほどに興味があった。2020年オリンピックで卓球が見られるのが楽しみになった。(1年女子)

生でプロの試合を見て、これがプロの力なんだなと思った。世界で戦う選手はやっぱり強かったし、一つ一つの言葉に重みを感じた。最後におっしゃられていた親に感謝するというのを忘れず、自分も部活や勉強に励んでいこうと思った。(1年男子)

間近で大島選手と田中選手の試合を見ることができて良かったです。もう二度とこのような機会はないと思うし、卓球の試合の見方や高校生活などについてのアドバイスが聞けて良かったです。(2年男子)

	<p>オリンピック選手のプレーを直に見ることができて、すごいと思った。ラリーしているのもとても速くてカッコよかった。卓球部の生徒も上手だと聞いていたのに、サーブを返すのに苦労していたので、さすがオリンピック選手はすごいなと思いました。次のオリンピックでも、もっと上位に入れるように応援したい。(3年男子)</p>
<p>7 実践 において工夫 した点 (事業 の特色)</p>	<p>全体としてはスポーツに関心を持っている生徒が多いが、部活動に属していない生徒では関心が低いこと、また卓球についての知識のない生徒もいるため以下のような点を工夫した。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 事前の雰囲気盛り上げるため、事業を案内するポスターを各クラスや校内に掲示し、ホームルームの時間等を使って担任の教員より、オリンピックや卓球についての説明を行なった。 • 事前に大島選手に対する質問を聞き、それを送付しておいて、当日答えてもらうことで、生徒に自分の質問に答えてもらっているという意識をもたせた。 • 通常の講演会とは異なり、中央に卓球台を設置し、実際の練習や試合の様子、選手の動きを見られるようにして、世界的なアスリートのすごさを肌で感じられるようにした。 • 卓球についての説明や、卓球部生徒との模擬試合などで生徒に、より身近に感じられるよう工夫した。 • 大島選手との事前の打合せや連絡を密にして、生徒に伝わりやすい形で話で、また、卓球だけでなく、スポーツや人生の目標についても話していただいた。
<p>8 主な 課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 大島選手がきわめて忙しく、当日も遠征の帰りに京都に寄っていただいたという状況のため、日程の決定が遅くなり、当日の計画や校内側の動きの準備及び十分な事前調整が難しかった。 • 本校体育館には、観客用のギャラリーや階段状になった座席がないため体育競技を生徒全員で見学すると後ろの方の席の生徒が見えにくい。卓球以外のスポーツでも同様である。
<p>9 来年度以降 の実施 予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 本校では部活動の入部率が低下傾向にあり、この活性化を目指していること、総合学科の中にスポーツ健康系列として、スポーツを中心に学ぶ生徒がいることから、スポーツ及びオリンピックへの関心を高める事業の重要性は大きい。 • 今年度とは取組内容は変わるとしても、継続して実施する方向である。



雰囲気を高めるために作成したポスター